

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



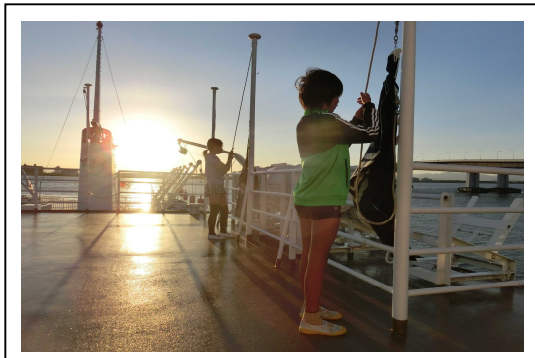
学習班で短歌づくり

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」 「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「体験活動」のよさ

【所長 新庄 正幸】



国立青少年教育振興機構：子どもの体験活動の実態に関する調査研究では、「子どもの頃の体験は、その後の人生に影響する。」と報告しています。幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高く、小学校低学年までは、友だちや動植物との関わり、小学校高学年から中学生までは、地域活動や家事手伝い、家族行事、自然体験が大切だという結果が出ました。

成人調査においても、子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、

やる気や生きがいを持っている人が多く、モラルや人間関係能力が高い、また、「丁寧な言葉を使うことができる」といった、日本文化としての作法・教養が高いという調査結果も出ました。一方、年代が若くなるほど、子どもの頃の自然体験や友だちとの遊びが減ってきている傾向にあります。調査の「自然体験」とは、海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと・海や川で泳いだこと・太陽が昇る所（左上写真）や沈むところを見たこと・夜空いっぱい輝く星をじっくり見たこと・湧き水や川の水を飲んだこととしています。

海を湖と読み替えた時、母なる湖をもつ滋賀県として、児童の宿泊体験学習の場を湖上に求め、学校教育の一環として、本びわ湖フローティングスクール事業を実施することは、びわ湖ならではの得がたい教育の成果が期待されているところです。

体験を通して得られる力（人間関係能力・意欲・関心・自尊感情等）を育てることによって、仲間といっしょに、「もっと調べたい、何でもチャレンジしたい、もっと深く学んでみたい。」という子ども達の意欲が高まれば幸いです。共通の「うみのこ」体験が、その後の人生により影響がでることを切に願います。

### かきくけコーナー

第55回航海のことです。学習のまとめの時間①に、環境学習を通してわかったことや考えたことを記入する中で、「水調べやプランクトンウォッチングでは、プランクトンは、水をよごす人間にとっては害だけど、魚にとっては利なので、どうすれば二つの利になるかなと思った。」と思案する子がいました。また、一人ひとりが環境学習に関わっての視点で短歌を作りました。まとめ②では、班のメンバーで相談して、班の短歌を仕上げました。（右上写真）

そして、閉校式前の全体のまとめの時間に、班で交流したことを発表しました。

「びわ湖はね プランクトンが たくさんで 魚が元気 いい湖だ」

「びわ湖はね プランクトンが いっぱいで 水がにごって こまってしまう」

対照的な短歌ですが、これらを使い、事後学習の話し合いで、さらに追究ができそうです。